

平成 2 7 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立 大 桐 中学校

平成 2 8 年 3 月

大阪市立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の学校教育目標である「人にやさしい学校づくりに努める」「個性のちがいを認め思いやりの心を育てる」の達成を目指して「Team The Daido」をテーマに様々な取り組みをすすめている。その結果、校内外での問題行動も減少し、授業も落ち着いた環境で行われる等、一定の落ち着きを保っている。またこれらの取り組みは保護者・地域からも理解・協力され、良好な関係が維持されている。

学力面では、全国学力・学習状況調査及び学力診断テスト等の結果からみると、全国や大阪市平均と比較して、国語・数学とも正答率の高い生徒が少なく、中間層の生徒が多いという状況となっている。

学力の向上については、各教科の工夫をこらした授業や長期休業中の補充学習に取り組んできたが、基本的な生活習慣が確立されていないことから自学・自習の習慣が定着せず、学習内容の理解不足の原因となっている生徒も少なくないと想像される。

これらの課題克服を目指し、協同学習の充実や授業の工夫をさらに進めるとともに、家庭での学習の定着化に向け、昨年度小学校と共同で作成した「家庭学習の手引き」の活用にも積極的に取り組む。

さらに今後も「Team The Daido」をテーマに、本校の学校教育目標である「人にやさしい学校づくりに努める」「個性のちがいを認め思いやりの心を育てる」のさらなる推進を図る。この取り組みは、本校の全ての教育活動の軸となっているとともに、生徒・保護者・地域にも浸透しており、今後はその推進を加速させるため、地域の教育力の積極的な活用にも取り組む。

中期目標

【視点 学力の向上、道徳心・社会性の育成、健康・体力の保持増進】共通

- 『人にやさしい学校づくりに努める』『個性のちがいを認め思いやりの心を育てる』という本校の学校教育目標を達成するために「Team The Daido」を目指す。

(カリキュラム改革関連)

(マネジメント改革関連)

(グローバル化改革関連)

(学校サポート改革関連)

【視点 学力の向上】

- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校の授業の復習をしている」の項目について「している」「どちらかといえば、している」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

「力のある学校」の8要素（together 号）を学校評価指針として全教職員で重点的に取り組む。

（1）【 視点 学力の向上 】

①すべての子どもの学びを支える学習指導(Effective teaching)を目指す。

○全市規模で実施される学力テストにおいて、平均点レベルの獲得を図る。

(カリキュラム改革関連)

②気持ちのそろった教師集団(Teachers)を目指す。

○首席・主任・部長のリーダーシップ育成のため、各種の研修に昨年度以上に参加できるようにする。

(マネジメント改革関連)

③戦略的で柔軟な学校運営(Organization)を目指す。

○柔軟かつ機動性に富んだ組織育成のため、学校独自で生徒対象のアンケートを2回以上実施する。

(マネジメント改革関連)

（2）【 視点 道徳心・社会性の育成 】

①豊かなつながりを生み出す生活指導(Guidance)を目指す。

○子ども相互がエンパワーする集団を育成し、生徒が主体となった体育大会を成功させる。

(グローバル化改革関連)

②安心して学べる学校環境(Environment)を目指す。

○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校に行くのは楽しい」の項目について「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

(マネジメント改革関連)

③双方向的な家庭とのかかわり(Home-school link)を目指す。

○家庭との連携のもと、2・3年生において昨年度と比較した遅刻者数を減少させる。

(学校サポート改革関連)

（3）【 視点 健康・体力の保持増進 】

①ともに育つ地域・校種間連携(Ties)を目指す。

○小中連携を充実させるとともに、家庭と連携した学びの連続性の推進を図るため、小中教務会を年3回以上実施する。

(ガバナンス改革関連)

②前向きで活動的な学校文化(Rich school culture)を目指す。

○「人にやさしい学校づくり」の観点から、障がい者理解・在日外国人理解のための研修会を実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【学力の向上】について

全市規模で実施される学力テストにおいて、平均点レベルを獲得すべく取り組みをすすめてきた。3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」および「大阪市統一テスト」の結果は次に示すとおりである。

○全国学力・学習状況調査

・平均正答率

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理 科
大桐中	70.1	61.4	54.3	33.2	44.9
大阪市	73.5	63.6	62.0	40.1	49.3
全 国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
大阪市比	-3.4	-2.2	-7.7	-6.9	-4.4
全 国 比	-5.7	-4.4	-10.1	-8.4	-8.1

○大阪市統一テスト

・平均正答率

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
大桐中	61.4	54.7	50.1	49.4	47.9
大阪市	64.7	57.4	59.3	55.6	59.8
大阪市比	-3.3	-3.2	-9.2	-6.2	-11.9

いずれのテストも、大阪市の平均点に及ばなかった。特に大阪市統一テストでは英語-11.9、数学-9.2とその差が特に大きい。英語の得点分布では20%以上30%未満での人数さと、80%以上の人数の少なさが目立つ。また数学も同傾向である。

3年生のテスト結果は非常に厳しいものであり、年度当初の目標に達しなかった。

次に、1・2年生で1月に行われた「チャレンジテスト」の結果をみたい。

○チャレンジテスト

・1年平均点

	国 語	数 学	英 語
大桐中	60.6	47.8	59.8
大阪府	61.0	51.0	63.5
大阪府比	-0.4	-3.2	-3.7

・ 2 年平均点

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
大桐中	48.1	52.6	45.9	46.0	51.4
大阪府	49.2	56.5	54.7	47.6	54.8
大阪府比	-1.1	-3.9	-8.8	-1.6	-3.4

チャレンジテストは大阪府平均との比較になるので、大阪市平均と比べたものと同等の扱いにはできない。しかし、チャレンジテストの結果をみると、1 年国語では 0.4 の差しかない。2 年国語も 1.1 の差である。統一テスト 3 年生の英語では 10 以上の差があったが、1・2 年では 3 点台とずいぶん差が少なく目標に近づきつつあることが実感できる結果となっている。

【道徳心・社会性の育成】

本校の体育大会は協同学習を取り入れ、生徒が主体となった学年演技を行っている。今年度もその取り組みでは大きな成果が得られた。しかし、組体操については大阪市レベルでの議論がなされており、今後の方向性を模索しなければならない時期にきている。

また、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙やチャレンジテストのアンケート結果では、学校に対する満足度は高い。「授業の内容はわかる」についての肯定的な回答が、数学以外は大阪府平均を上回っている。しかし、「授業はわかる」「学校が楽しい」という生徒の意識と学力との間に隔たりがあるのは否めない。生徒の満足感と学力との相関関係を今後さらに分析する必要がある。

【健康・体力の保持増進】

小中連絡会および小中教務会を実施し、小中連携図ってきた。今年度は雨天のため体育大会学年演技披露会が中止になり、生徒・児童間の交流は部活動見学会のみになった。

また現在、平成 27 年度実施の体力・運動能力、運動習慣等調査の分析を進めており、その結果に基づき「平成 28 年度体力づくりアクション」を作成するとともに、小学校との運動面での連携もすすめたい。

生徒の学習環境の整備という面では、今年度は外壁補修の大規模な工事が入り、学習環境は整いつつある。しかし、3 年後からの生徒の急増に伴う教室確保や整備についてはまだ計画がなされておらず、今後教育委員会との話し合いも含め検討することが必要である。

(様式2)

大阪市立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ① すべての子どもの学びを支える学習指導(Effective teaching)を目指す。 ○全市規模で実施される学力テストにおいて、平均点レベルの獲得を図る。 (カリキュラム改革関連)	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 自主学習習慣の確立】 基礎学力定着のためのシステムづくりを推進する。 (カリキュラム改革関連)	C
指標 [国語] ・基本的な読み書きができるような学習を計画し、実行する。 ・自らの意見や考えを書いたり、発表したり、他者の意見を聞いたりできる能力を向上させる。 ・指導方法を工夫し、読解力の向上につながる授業を行う。	B C B
[社会] ・基本的内容を理解させることに努め、基礎学力の定着を図る。 ・指導方法に工夫し、社会科に対する興味・関心を高める。	B B
[数学] ・基本的内容を重点的に指導し、基本的事項の定着を図る。 ・個別指導および適切な教材の使用により、学習意欲を高めるように努める。 ・協同学習を通して、生徒各自の問題解能力を向上させる。	C B C
[理科] ・学習内容のイメージ化をはかることで科学的な興味、関心を高め、基礎学力の定着や応用発展的な学力の向上を目指していく。そのため、授業の多くの場面において生徒や演示実験、実物の観察などを積極的に取り入れた授業展開を行う。 ・淀川を含む地域の自然環境を教材として活用するための研究を継続・推進する。	B B
[音楽] ・音楽に対する興味・関心を高め、意欲的に音楽活動を展開できるよう教材を工夫する。 ・音楽活動の基礎的な能力の向上に努める。	B

<p>[美術]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の基本的・創造的な造形活動を発展させる。 ・身近に美術の活動にふれ、美術を愛好する心情を育成する。 ・粘り強く取り組む姿勢を養う。 <p>[保健体育]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの運動種目の特性を生かして、個人の体力・運動技能の向上を図る。さらに、互いに学び、教え合える集団育成に努める。 <p>[技術家庭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 H単位の授業で効率の上がる実習法の研究を進める。 ・班で協力して作品の完成度を高める工夫をする。 ・全学年で「食生活」についての学習、実習を取り入れ、3年間を通して食育に努める。 <p>[英語]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化に対する理解を深め、C-NET との授業を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成する。 ・基礎的な内容を重点的に指導し、4技能をバランスよく取り入れた授業を実施する中で基礎学力の定着に努める。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>・全国学力・学習状況調査では国語・数学・理科ともに大阪市平均に達しなかった。</p> <p>・統一テストでも大阪市平均に及ばなかった。</p> <p>[国語]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年ともに定期的・継続的に漢字の読み書き学習を実施することができた。来年度も継続したい。 ・グループ学習や文章の回し読み等を通して、他者の意見に触れる機会を多くもった。来年度は読解力の向上につなげていきたい。 ・読解力の向上に努めたが、全市規模のテストでは結果を出せなかった。しかし、書くことに関しては、作文で全市を上回った学年もあった。 <p>[社会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力は定着してきているが、活用し表現する力をさらにつける必要がある。 ・ICT を活用することにより、興味・関心を高めることができた。 <p>[数学]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着のため、問題集・プリントを用いて反復練習を行った。 ・協同学習により問題解決に取り組む姿勢は向上したが、全国学力・学習状況調査では目標に達しなかった。 <p>[理科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容のイメージ化を図るためにプロジェクターで実験映像を見せたり、事象を見せたりすることで、興味・関心を高めることができた。 ・淀川河川敷の植物「タンポポ」「セイヨウカラシナ」を採取し観察を行った。実物を用いることで、 	

観察の楽しさを体験させることができた。

[音楽]

- ・音楽に対する興味・関心を高めるため、変声途中の生徒や、各学年の生徒の状況に合わせた教材の精選に努めた。その結果、意欲的にリコーダーや歌唱に取り組む生徒が増えた。
- ・全学年で合唱に取り組み、ハーモニーを作りあげる楽しさを味あわせることができた。

[美術]

- ・絵具や立体造形の基本的な技法を学び定着させるよう個別指導や協同学習を取り入れ、自発的な学習ができるようになった。

[保健体育]

- ・授業内容に協同学習を取り入れ、生徒同士で教え合いや学び合いをさせることで、集団としての学習意欲を高めることができた。さらに、運動量の確保を常に意識しながら安全面に配慮をした指導に取り組んだ。

[技術家庭]

- ・一班の人数を減らし実習を行った結果、作業効率が向上した。効率よく作業ができることで、よりよい作品を制作することができた。
- ・班での作業に慣れ、作業スピードがあがり完成度も高まった。しかし、個人での完成度を求めるあまり、班での役割をおろそかにする場面があった。
- ・全学年で調理実習や間食の採り方・食事のマナーの実習を行った。また、「ルールを守り助け合いながら行うこと」を実習の目標とし、明確に伝えた。その結果、今まで以上に助け合う姿やルールをしっかりと守ろうとする姿勢がみられた。助け合いが深まったことで、食に対する苦手意識が軽減された。

[英語]

- ・C-NETとの授業を通して、英語で自分の思いを伝えること、英語での対話活動を通して、人とコミュニケーションをとる能力の育成に努めた。
- ・習熟度別学習を通して、基礎学力の向上に努めた。またこまめな小テストや課題を通して、学力の定着に努めた。

次年度への改善点

[国語]

- ・チャレンジテスト・統一テストで「書くこと」の領域は市平均に近づくことができたので、協同学習などを通し弱点である「読むこと」「話すこと」「聞くこと」の強化を行う。

[社会]

- ・ICTを協同学習に活用する方法を工夫する必要がある。

[数学]

- ・引き続き反復練習による基礎学力の定着に努めるとともに、過去に実施された全市規模での学力テストの問題に取り組む、応用力の向上をはかる。

[理科]

- ・今年度同様、興味・関心を高めるために、まずイメージ力をしっかりつけられるよう実験やプロジェクターを用いた授業を行う。

- ・淀川河川敷の植物を教材として、観察・研究を継続していく。

[音楽]

- ・実技に関しては難度の高い教材にも取り組み、さらなる技能の向上に努めたい。

[美術]

- ・課題内容の共通理解を徹底させた結果、目標をもって取り組ませることができた。しかし、時間内に完成させることができない生徒がまだいるので、さらなる教材研究に努めたい。

[保健体育]

- ・授業内容をさらに深めるため、基本である集団行動の徹底を工夫したい。

[技術家庭]

- ・班の人数は減らしたままにし、役割をしっかりと決め、助け合いながら班活動ができるようにしたい。
- ・各学年の生徒の状況に合わせた教材を選び研究を行う。さらに自分の食生活に興味を持ち、見直すことや改善していこうとする力を伸ばすことができるよう工夫したい。

[英語]

- ・統一テスト・英語能力判定テストでの正答率が、大阪府・大阪市の平均正答率を大幅に下回っていることを受け、指導方法の工夫・習熟度別少人数授業の深化充実を図り、正答率を平均に近づけるよう努める。また、家庭学習定着のためのプリント学習、授業外での学習への指導も取り入れ、基礎学力定着のために取り組んでいく。

(様式2)

大阪市立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ②気持ちのそろった教師集団(Teachers)を目指す。 ○首席・主任・部長のリーダーシップ育成のため、各種の研修に昨年度以上に参加できるようにする。 (マネジメント改革関連)	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【 区分 各種研究・研修の充実 】 チーム力を引き出すリーダーシップの育成を図る。 <div>(マネジメント改革関連)</div>		C
指標 各種研修の成果としての伝達講習を学期に1回以上実施する。		
取組内容②【 区分 若手教員の研修の充実 】 メンターを中心に学びあい、育てあう若手教員集団を育成する。 <div>(マネジメント改革関連)</div>		B
指標 OJT 事業等と連携し、年3回以上の研究授業、研究協議を実施する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>・本年度は例年と比して、生活指導上の問題が多発し、その対応に追われることが多かった。その結果、首席・主任・部長が学校現場を離れられず、研修に充分参加させることができなかった。</div> <div>・11月4日午前中に1・2・5年次の研究授業を、午後からは「大中スタイルの協同学習」の研究授業と全教員による研究協議を行った。</div> <div>・11月に「研究授業期間」を設定し、全教員の研究授業を実施した。</div> <div>・OJT 事業と連携では、1回目の研究授業を6月17日に2回目を前述した11月4日に実施した。3回目は1月14日、道徳の研究授業を実施した。</div>		
次年度への改善点		
<div>・リーダー層の育成は、本校の喫緊の課題である。緊急時の生徒対応もふくめ、指導体制について再度見直していきたい。</div> <div>・学級数の増加に伴い、授業時数の多い教員も増え、授業時間内での相互参観が困難であった。</div>		

次年度に向けて、よりよい方策を考えていきたい。

(様式2)

大阪市立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 豊かなつながりを生み出す生活指導(Guidance)を目指す。 ○子ども相互がエンパワーする集団を育成し、泊行事・体育大会を成功させる。</p> <p>(グローバル化改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 国際社会に生きる子どもの教育の推進】</p> <p>子ども同士が相互に助け合い、エンパワーできる集団をつくりあげる。</p> <p>(グローバル化改革関連)</p>	B
<p>指標 各学年・委員会を中心として、各行事を成功に導く。</p>	
<p>取組内容②【区分 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>「いのち」や「思いやりの心」を大切にし、いじめを絶対に許さない取り組みを各学年で実施する。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 教育相談期間を設置し、生徒の実態の把握に努める。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・生徒同士が声をかけあい、助け合いながら各行事を成功させた。
- ・体育大会では体育委員と学級代表を中心に、教え合う・声を掛け合う場面を作ることができた。
- ・各学年とも学年演技を通して思いやりの気持ちと団結力を養うことができた。
- ・「いのちの日」の全校集会・クラス実践に取り組み、命の尊さについて生徒だけでなく教職員も一緒に考える場とした。
- ・教育相談アンケートを活用し、常に生徒の声を聞ける環境をつくった。
- ・違いを認め合うために障がい者理解について実践した。(1年)
- ・全5回の「いのちの学習」を通して、生命の大切さについて深めることができた。(1年)
- ・前年度より起こっていた、いじめを含む生活指導上の問題点が、今年度に入り顕在化した。このことをふまえ、他者を思いやり自分自身を見つめ直す取り組みを進めた。(2年)
- ・様々な取り組みの中から、互いを思いやる気持ちや団結力を育むことができた。(2年)

- ・修学旅行実行委員がルール作りをし、そのルールを集団としてよく守って行動した。(3年)
- ・部落問題学習を実施し、違いを認めあう集団作りに努めた。(3年)
- ・支援学級生徒の情報交換を密にし、立場の弱い生徒の理解ができる集団となるための取り組みを、担任が中心となり実践した。(3年)

次年度への改善点

- ・「いのちの日」の全校集会などをする中で、生徒の実態をにより即した取り組みの継続が必要である。
- ・区役所からのゲストティーチャー事業と重複する部分があるので、区役所との連携をより緊密に行う必要がある。
(1年)
- ・ちがいを認め合う集団を育成するために、お互いのことを考え合える機会をつくり、心を育てていく取り組みを進める。(2年)
- ・子ども相互がエンパワーする集団を育成するために、各行事を通して中心となるリーダーを見極め、今まで以上にきめ細かく指導していく必要がある。(3年)
- ・「いのち」や「思いやりの心」を大切にする子どもの育成のため、道徳の指導については系統的・計画的な実践を行う必要がある。(3年)

(様式2)

大阪府立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ②安心して学べる学校環境(Environment)を目指す。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校に行くのは楽しい」の項目について「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 (マネジメント改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 教育環境の整備】 安全で規律ある雰囲気を構築する。 (マネジメント改革関連)	B
指標 昨年度と比較して、不登校生徒数を減少させる。	
取組内容②【区分 キャリア教育】 しっかりとした職業観・勤労観を身につけられるよう、家庭・地域と連携してキャリア教育を実施する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 福祉体験学習を計画・実施し、成功させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学校に行くのは楽しい」の項目について昨年度と比較すると

	「そう思う」	「どちらかといえば、そう思う」	合計
平成26年度	37.6	36.9	74.5
平成27年度	45.9	29.5	75.4

 となっており、わずかではあるが昨年度を上回った。
- ・不登校生を2学期末までの統計で比較すると、昨年度は27名、本年度は28名であり、1名増加してしまった。
- ・保護者進路説明会を2回実施。進路通信の発行。2年生では高校の授業を大桐中学校で実施する進路学習を11月13日(金)に実施した。1年生は3学期に進路学習の予定。
- ・2月に実施予定の「ふれあい総合学習」に向けて、計画どおり取り組みを進めている。(1年)

- ・「福祉ふれあい」体験・高校より講師を招いての「体験授業」等、進路をふまえた取り組みを行った。生徒の感想からは、仕事や進路に対して前向きな姿勢がみられた。(2年)
- ・進路に向けた取り組みとして、今年度は新たに高校の「出前授業」を取り入れた。生徒の反応はよく、進路に向けての第一歩を踏み出した生徒も多い。(2年)

次年度への改善点

- ・生徒・保護者の学校に対するニーズ、満足度についてさらに分析を加え、「行くのは楽しい」での肯定的な回答が増えるよう取り組みを進めたい。
- ・現実の進路を目の前にして前向きに考えていけるよう家庭・地域との連携をより密にしていく必要がある。(2年)
- ・行事の精選に伴い、進路学習の内容も再度検討する必要がある。

(様式2)

大阪市立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ③双方向的な家庭とのかかわり(Home-school link)を目指す。 ○家庭との連携のもと、2・3年生において昨年度比較の遅刻者数を減少させる。 (学校サポート改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<div>取組内容①【区分 自尊感情と思いやりの心、社会性の育成】</div> <div>ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報モラル教育事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成する。</div> <div>区役所との連携（カリキュラム改革関連）</div>		B
<div>指標 全生徒を対象に、どの学年も3事業すべてに参加できるよう、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報モラル教育事業を、のべ18回実施する。</div>		
<div>取組内容②【区分 道徳教育の推進】</div> <div>教職員・文化鑑賞会担当によって質の高い文化鑑賞会を実施する。</div> <div>（カリキュラム改革関連）</div>		C
<div>指標 芸術・文化鑑賞会を実施する。</div>		
<div>取組内容③【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</div> <div>地域の方々をボランティア講師として迎え、通常の学習では体験できない充実感を体験させる</div> <div>（カリキュラム改革関連）</div>		B
<div>指標 1年生ふれあい総合学習を計画・実施し、成功させる。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		

- ・区役所と連携を取り、11月に「情報モラル」、12月には「いのちと性」の教育事業を実施した。
2月にはストレスマネジメントを実施予定である。
- ・2学期末までの遅刻数は昨年度の2,860件に対し、今年度は2365件と減少がみられた。しかし遅刻数はまだまだ多く、家庭との連携をさらに深めたい。
- ・舞台発表の部活動が増えたので、より質の高い文化鑑賞会を実施できるよう計画を練る必要がある。
- ・2月に地域の方々をボランティア講師としてお迎えする「ふれあい総合学習」の取り組みを進めている。講師をお迎えするための準備を着々に行っている。

次年度への改善点

- ・それぞれの教育事業を効果的に活用するための継続的な取り組みを進めていきたい。
- ・遅刻数を減少させるために家庭との連携をさらに深めたい。
- ・地域コーディネーターとの連携（計画・実施ともに）を密にすることが、「ふれあい総合学習」実施には必要不可欠である。

(様式 2)

大阪市内立大桐中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【 視点 健康・体力の保持増進 】 ①ともに育つ地域・校種間連携(Ties)を目指す。 ○小中教務会を年 3 回以上実施し、小中連携を充実させるとともに、学びの連続性の推進を図る。 (ガバナンス改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 区分 小中一貫した教育の推進 】 明確な目的をもった校種間連携の推進に取り組む。 <div>(ガバナンス改革関連)</div>	B
指標 授業・行事等の相互参観を 3 回以上実施する。	
取組内容②【 区分 安全対策 】 保護者・地域との情報交換に基づいて通学路の安全確保に努める。 <div>(学校サポート改革関連)</div>	B
指標 毎月複数回の保護者等による登校指導を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<div>・ 4 月・6 月に小中連携会議を行い、年間計画の調整や小中交流の確認をした。9 月末の体育大会学年演技披露会は雨のため小学生との交流は中止となった。次回は 2 月に部活動見学会を実施予定である。</div> <div>・ 毎週月曜日、保護者・地域の方とともに登校指導を行った。登校指導をする中、通学路の安全確保をするとともに教職員との情報交換も行い、下校時のマナーも含め生徒に対する指導を行った。</div>	
次年度への改善点	
<div>・ 体育大会学年演技披露会は、小学 6 年生とその担任の見学となっているが、小学校から「他学年の先生方を見学会を設けてほしい」との要望があり、来年度に向けて計画を進めている。</div>	

- ・全校集会や学年集会、学級で注意喚起を行い、安全について考えさせるとともに、登校時に近隣の方へ迷惑がかからないよう指導を継続していきたい。

(様式2)

大阪市立大桐中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>②前向きで活動的な学校文化(Rich school culture)を目指す。</p> <p>○「人にやさしい学校づくり」の観点から、障がい者理解・在日外国人理解のための研修会を実施する。</p> <p>(学校サポート改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>誇りと責任感に基づく学校風土を築き上げるとともに、保護者・地域の理解を深める。(学校サポート改革関連)</p> <hr/> <p>指標 学校文化の中心を担う、大中ナビの制作・発行を行う。</p>	B
<p>取組内容②【区分 教育環境の整備】</p> <p>子どもの可能性を伸ばす幅広い教育活動を推進する。(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 特別支援教育において、毎月の校内研修を実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・民族講師を招いて在日外国人理解のための研修や部落問題についての研修を実施した。本校にもルーツを持つ生徒が在籍しているので、学んだことをもとに実践を行いたい。 ・「大中ナビ」の作成を通じて、教職員が自主的・積極的に「人にやさしい学校」づくりに取り組んでいる。また、各行事や取り組み内容を「大中ナビ」で発信することで、保護者・地域の理解を深める一助となった。 ・職員会議の際に毎回支援生徒、対象生徒について情報交換を行ってきた。とりわけ支援内容が変わってきた生徒に関して全教職員の共通理解を図った。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も様々な分野の研修を行い、幅広い知識の習得を目指したい。 ・「大中ナビ」作成が形式的なものとならないよう綿密に打ち合わせをしたい。また、4月に 	

は「ナビの会」代表（保護者・地域）による新転任を含めた全教職員に向けての研修会を実施予定である。

- ・特別支援教育の共通理解については、現在の取り組みを継続して行いたい。